

煉馬大根。ねりまは豊島郡也、江戸より三里程戌亥此地の大根名産也、青みすくなく、苦辛の味ひなし、大きなるは尺二三寸、周八九寸、周は常也、味ひよろしく、尾州宮重に同じ。
 下總國香取郡小見川大根塚殿内田出羽守御知行也と云所の大根は、長三尺計、周り一尺七八寸程あり、味ひ尤よろし、一荷に十本は持かぬると也、獻上并御役人方へも上りけるよし所の人申き、
 清水夏大根。板橋のさき 江戸より二里半ほど此所の種を以諸國に植る、他國にうへたる所の種にては生がたし、よつて毎とし此所の種を設けてうゆる也。

〔名物鹿の子〕中 清水夏大根種

しばしとて 大根かんばん 清水かげ

轟大根。

花は根にとどろき 大根揚屋哉

〔國花萬葉記〕下當國名物出所

野大根久保田と云

〔永正五年狂歌合〕七番 左

正月は牛房ばかりの尾をふりていなむとせしをくる、大根○中

左の大根くる、といふ事、此比世にもてあそび申狂歌に侍るべし、かゝる事の濫觴は、家々の相傳説々もおほく侍るべけれども、先當流の口傳の一説あるし申べし、何の御代にかありけむ、かた山ざとの風さふらひ、きはめていやしき姿なるありけるが、大根をのみこのみてけるを、京童のにくみ笑、大なる大根をいかほどもあたへて、神變奇特をくふ人かなとほめあげて、嘲嘆するをもたらす、さては我こそ大根くひて、天下無雙の名人なれと、高慢してくふほどに、